

月 旬	9			10			11			12			1			2			3			4			5			6			7			8			9																																
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																	
生育 ステージ	播種期																					田植え			分けつ期			最高分けつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期			成熟期																													
管理 作業	● 稲わらの鋤き込み			● 堆肥の施用			● 深耕			● 耕うん			● 畦畔作り			● 播種(箱施薬剤混和)			● 塩水選・種子消毒			● 畦畔作り			● 基肥施用			● 代かき			● 箱施薬剤散布			● 田植え(基肥施用)			● 除草剤散布			● 中耕・草取り			● 畦畔管理			● 穂肥施用			● 畦畔管理			● 斑点米カメムシ類			● いもち病防除			● ヒエ抜き			● 畦畔管理			● 収穫・乾燥・調製			● 稲わらの鋤き込み		
水 管理	【深水】																					【浅水】			【中干し】			【間断かんがい】			【湛水管理】			【落水】																																			
栽培 の ポ イ ン ト	<p>1. 土づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機物の補給として、稲わらの鋤き込みを行う。 堆肥等の施用を積極的に行い、地力維持に努める。 <p>2. 作土層の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 深さ15cmを目標とした耕耘を行い、根域を拡大する。 <p>3. 基肥</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機アグレット673号を40kg施用する。(砂質土は2~3割増肥、粘質土は1~2割減肥する) 施用時期は、肥料の分解を考慮し田植前10日を目安に施用する。 初期生育(分けつ)の確保が難しい場合は、根付細粒化成を施用する。(但し、10kg以内を目安) 基肥一発肥料の場合は「マイルドコート200号」を40~50kg施用する。 <p>4. 穂肥</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機追肥530特号を20kg「出穂前20日(幼穂長1cm)」施用する。(根付化成の施用前提の場合) 但し、根付化成(を施用していなければ、有機追肥530特号は、追肥として最大35kgまで施用が可能。<u>(化学チッソ量4.5kg以下に抑えることがポイント)</u>) 施用遅れは、粗タンパク質含有率を上げ、食味に影響をおよぼすので注意する。 <p>5. 育苗</p> <ul style="list-style-type: none"> 種子消毒は、微生物農薬エコホープDJの200倍を24時間浸漬で行う。<u>(陰干しはしない!)</u> 播種量は、催芽粃で120~150g/箱の薄播きとする。 ハウス内の温度管理とかん水量に注意し、健苗育成に努める。特に30℃以上の高温に注意する。 <p>6. 田植え</p> <ul style="list-style-type: none"> 育苗日数は20~25日とし、2~2.5葉期で移植する。(徒長苗に注意!) 1株当たり3~5本、栽植密度は㎡当り18.5株とし密植に注意する。(坪60株植え) <p>7. 雑草防除(3~4成分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋冬期の耕うんを行い、雑草の発生量の抑制に努める。 生育中の畦畔管理は、草刈り機又は、バスタ液剤(2回迄)やラウンドアップマックスロードを散布する。(3回迄) 除草剤散布は、一発処理剤のサラブレットKAIフロアブル(またはジャンボ、粒剤)を田植後30日迄に散布する。<u>(散布遅れに注意)</u> 藻類が発生した場合は、モグトン粒剤を散布する。但し、散布回数は1回迄とする。 雑草の発生が多い場合は、手取り又は中耕を行う。 <p>8. 病虫害防除(2~3成分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 畦畔及び農道などの雑草は、病虫害の発生に影響するので、草刈りを行い水田周辺の環境保全に努める。 初期害虫防除については、抵抗性イネドロオイムシを考慮し、プリンス粒剤を箱当り50g散布する。(または、播種前に床土に箱当り50g混和する。) 本田後期の病虫害である斑点米カメムシ類・いもち病については、発生量に注意し適期に散布する。 空散防除: アミスタートレボンSE (個人防除でも使用可) *個人防除の場合: 殺虫剤は、トレボン粉剤DL : 殺菌剤は、アミスターエイト <p>9. 水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 田植え初期は深水、活着後は浅水で管理し分けつを促進する。 有効茎数確保後(1株当り18本前後)、中干しに入り無効茎数と下位節間の伸長を抑制する。 カドミウムの吸収抑制のため、出穂3週間前から出穂2週間後まで湛水管理とする。 落水時期は、出穂後25日以降とする。 <p>10. 収穫・乾燥・調製</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫は、帯緑色もみ歩合15%を目安に適期に行う。 乾燥は、水分14.5~15%とし、過乾燥に注意する。 調整は、グレーダーの網目は1.8mm以上で選別する。 																																																																				

※使用量は、10a当たり。

※●有機アグレット673号(6-7-3)有機態チッソ6% ●有機追肥530特号(15-3-10)有機態チッソ3.2% ●根付化成(細粒)(13-13-13)有機態チッソ0%

●マイルドコート200号(12-10-10)有機態チッソ6%